

ミーティングの 10のステップ



子どもたちとつくるミーティング（サークルタイム）を、10のステップに分けて詳しく見ていきます。
園で取り組む際には、まずは1つずつ、ステップを踏みながら進めていきましょう。
『保育ナビ』の毎月の連載では、現場の先生方からの疑問に、ステップごとに青山先生が答えています。
本資料と併せて、ご活用ください。

ステップ概要

ステップ0

本音を出せる環境があるか

ステップ1

集まる

ステップ2

耳を向ける

ステップ3

声を出す

ステップ4

傾聴する

ステップ5

話す

ステップ6

会話する

ステップ7

考える

ステップ8

意見を出す

ステップ9

考え合う

ステップ10

そしてまた暮らしへ

ステップ5

話す（本音は育つ）

● つい本音が出るミーティングに

ミーティングでみんなの前で話すことは、一見すると「自分の気持ちが出しにくくなるのでは？」という懸念がありますよね。

でも実際は、ミーティングでこそ本音は出しやすく、そして本音を出すことに慣れていくことで本音は育つのです。

その秘密は、まずは場の薄さです。ミーティングではもちろんみんながだれかの声（それがおとなでも子どもでも）に耳を傾けているのですが、その集中力はいつでも一定ではありません。聞いているのか聞いてないのかわからないような雰囲気です。モゾモゾしたり、隣の人をこちょこちょしたり、鼻をほじったり。面と向かわれている感覚は、その場にいるとあまりありません。どちらかというと、ふわっとみんなが集っている、そんな感じです。だからこそ、つい、するっと自分の気持ちが出てしまう。出せてしまう。これは輪になって座っている効果

もあるかもしれません。

加えて、こんなことも言えると思うのです。

例えば、4歳の子が5歳の子に面と向かって言いにくいことがあるとします。でもミーティングでなら、ほかのみんなもいるし、公正・公平な場ということもあり、5歳だって気持ちを出しやすいのです。これは考えてみればおとなも同じで、「弱者」が「強者」にはなかなか面と向かっては言えないですよね。でもゆるゆるした空気の中で、何か言えばきちんと聞いてくれるという安心感があれば、ぼろっと本音もれてきます。そして一度出ると本音はどんどん育っていきます。

本音を出すことそのものに対する抵抗が薄れ、慣れていくし、一度本音を出してみると「じぶんってじつはこういうことかかんがえてたんだ」と、言葉にすることで気持ちというぼんやりしたものが明らかになっていきます。子どもの本音が言葉に出る瞬間って、その人が生まれていく過程でもあります。